

# 実践編 第八回 『村明細帳⑤』

〔村差出明細帳

宝曆十辰 月日〕

(小川家文書 D-4-17)

御除奉願上候得八重而大御檢地之節御除

可被下候由被 仰渡候

切支丹 御制札壹枚

一 御高札三枚内

鉄炮 御制札壹枚

火付 御制札壹枚

一 玉川御上水御高札貳枚

是ハ当村上下之橋際ニ町御奉行所様方御建被遊候

一 御鷹場之事

当村不残尾州様御鷹場ニ御座候

一 御上水端萱御年貢金三分錢五百三拾文ツ、

年々町年寄御役所へ相納申候

一 当村吞水御上水方分水申請候以樋水門口

諸事入用自普請ニ仕候且又此吞水料

金壹両宛長谷川伊左衛門小林茂兵衛方へ相納申候

## 【解説】

「奉<sup>ニ</sup>願上<sup>ニ</sup>」で（願上げ奉<sup>り</sup>）と読みます。「可<sup>レ</sup>被<sup>レ</sup>下<sup>」</sup>（下さるべく）・「被<sup>ニ</sup>仰渡<sup>ニ</sup>」（仰せ渡され）・「被<sup>レ</sup>遊<sup>」</sup>（あそばされ）・「不<sup>レ</sup>残<sup>」</sup>（残らず）は下の文字から上に返って読みます。（基礎編『返読文字を覚えよう』参照）「仰渡<sup>」</sup>の前一字分空白がありますが、これは『闕字<sup>けつじ</sup>』といい、天子・貴人を記す際敬意を表し上部を空白にする慣行です。（この場合「仰渡<sup>」</sup>は貴人名ではありませんが、幕府からの命令という間接的な意味で敬意を表していると考えられます。）改行し空白をつける場合は『平出<sup>へいしゅつ</sup>』といいます。

また、小川村の高札は名主家前青梅街道沿いと玉川上水に架かる「小川橋」付近に立てられていました。そして上水（分水）まわりの経費は自普請、つまり村内で賄い、呑水料を年間金一両負担していたと記されています。小川村では開発当初から水料金が徴収されており、金一両を村の家数で頭割りしていました。享保の改革以降に開発された武蔵野新田では水料金は免除され、小平市域の新田では小川村のみ負担しています。

次に文字を見ていきましょう。**奉**「奉」の横棒「三」「人」がかなり省略され「土」のようになってしまいます。**願**「願」も難解です。特におおが**い**「頁」が特徴的ですが、この形が典型的なくずし方です。また「願」は**頼**「頼」とも近似しています。偏の縦棒が突き出ているの**が**「頼」です。**奉**「奉願上」は頻出語句なので、今後多数

の登場が予想されます。**得**「得」の行人偏**彳**「彳」はこの形が一般的です。くずしが進むと一本棒についた点もなくなってしまうので、文脈からの判断を心がけましょう。

**鷹**

「鷹」の字も難解です。「まだれ」は省略され、「なべぶた」の様

に見えます。

**不残**

「不残」の「不」は平仮名「ふ」に見えますが、漢

字表記です。「残」の旁は**冫**や**冫**で表します。また、今回は二種類の

「水」

**水**

**水**

**水**

**水**

**水**

**水**

**水**

**水**

**水**

**水**

**水**

**水**

**水**

的なくずし方なので覚えておきましょう。

